

国際ロータリー第2840地区 2005-2006年度

# ガバナー月信



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER  
to Rotary club presidents and secretaries

超我の奉仕

2005  
6



曾我ガバナー事務所

〒371-0026 群馬県前橋市大手町3-3-1 群馬県中小企業会館3F

TEL.027-234-2840 FAX.027-234-0555

URL <http://www.rid2840.jp> E-mail [soga@rid2840.jp](mailto:soga@rid2840.jp)

Vol.0



## [目次]

月信発刊に寄せて 2005-06年度ガバナー 曾我隆一	2
国際ロータリー ステンハマー会長メッセージ	4
ステンハマー会長プロフィール	7
奉仕の第二世紀に向けて ガバナー 曾我隆一	8
曾我ガバナープロフィール	10
2005-06年度 地区目標	11
超我の奉仕について (RI年次テーマ解説)	
ガバナー 曾我隆一	12

2005-06年度 地区組織の構成	16
地区組織構成 解説	17
ガバナー公式訪問要領	23
PETS・地区協議会アンケート結果報告	24
曾我ガバナーエレクト事務所 開催行事 (~6月)	25

## 月信発刊に寄せて

国際ロータリー 2840 地区

2005 - 06 年度

ガバナー 曾 我 隆 一

会長エレクト、次期幹事の皆さんこんにちは!!

あと僅かでいよいよ待ちに待った私達のロータリー年度が始まります。前年はロータリー創立100周年を盛大に祝賀しました。そのフィナーレが今月のシカゴでの国際大会であります。7月からは新たなる奉仕の一世紀の幕開け、気持ちを切り替えてのスタート開始であります。

さて、現在世界では168カ国、会員総数121万人であり、日本は34地区、2,329クラブ、103,000人の会員数を誇っていますが、一部の欧州での例外を除いて国内、当2840地区においてもおしなべて会員の減少に悩まされています。この現象に対してRIレベルで、また、あらゆるロータリーセミナーでも分析と対策が検討されていますが、残念ながら直ちに効果があがる状況ではありません。

会員減少は様々な内的・外的要因で生じていると考えられますが、最も肝心なことは会員減少は結果であって、根本的にはロータリー活動の母体であるクラブ自体の組織・運営に不合理や問題点が潜在しているのではないかと、ということです。私は、会員であるロータリアンにとってロータリーへの魅力が低下もしくは喪失していることに会員減少の最大の原因があると思っています。

PETS、地区協議会の時にもお話ししましたし、ガバナー補佐の皆さんを通じてお伝えしたように、2005 - 06年の地区運営の最大の眼目はクラブ組織・運営強化支援であり、その具体的な手順とツールを準備しています。地区組織上は、タスクフォースである会員組織強化委員会（ガバナーが委員長、8人のガバナー補佐が委員）と、スタッフ機能としてロータリー21世紀委員会、そしてパスト・ガバナーからなる地区研修委員会等の地区チームが一体となって、

地区内47クラブの活性化をサポートして行きます。

私は、7月から、このガバナー月信を通じて、皆様の活動と貴クラブの活性化に少しでも役立つ情報をお伝えすることができるよう努めますので、月信のご愛読をよろしくお願いいたします。また、地区やガバナーに対する忌憚のないご意見・ご提言を賜れば幸いです。

ロータリーライフを最も端的に表している言葉が今年も、アナハイムの国際協議会会場入り口にありました。"ENTER TO LEARN" "GO FORTH TO SERVE" 「入って学び、出て奉仕せよ」であります。

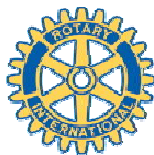
例会場という修練の場を通じ、ロータリーとは何ぞや、奉仕とは何ぞやを学び、そしてその結果昂められた心で各自の家庭、職場、地域社会、国際社会で奉仕を实践するように精一杯の努力を傾注致しましょう。

一年間一緒に ROTARY を : Enjoy, Study, Service !!



2005-06 年度 国際ロータリーのテーマ

## Service above self 超我の奉仕



# 超我の奉仕

朋友ロータリアンの皆さん

2005 - 06年度、私たちは、確固たる基盤および羅針盤となる過去の成功の数々、そして意欲を引き出す豊かな歴史とともに、ロータリーの奉仕の第2世紀へと踏み出しました。私たちは過去の栄光に閉じこもるべきではありませんが、そこから学ぶことは、将来への確かな前進のエネルギーとなるはずで

このことを念頭に置きながら、私は、自分の重要な使命を的確に表すテーマを選ぶべく、これまでの世紀にロータリアンが書き記してきた数々の叡智に満ちた言葉に目を向けました。私たちの思考を導き、行動を促すあらゆる感動的なメッセージの中でも、ロータリーの標語「超我の奉仕」の5文字ほど、的確にロータリーとロータリアンの精神を言い表している言葉はありませんでした。

私たちがロータリーの第2の百年の第1章を書き始める今年度に、国際ロータリーの会長となることができ、大変光栄に思います。この重要な年度のテーマとして「超我の奉仕」を選ぶことは、ロータリアンを鼓舞する最も意義深い言葉を使いたいという私の願望を反映しています。しかし、私はまた、ロータリーでの日々を簡素に保つ努力、すなわち、過去からの継続を維持しつつ、未来に向けてまっすぐな道のりを据えることが必要であるとの思いからも、このテーマを提案いたします。従って、私は、これまでに絶大な成果を上げてきた、人類の基本的ニーズを表す諸分野に焦点を当てたいと望んでいます。

このような分野の一つに、識字率向上と教育があります。一対一の取り組みから大規模な識字率向上プログラムに至るまで、ロータリー・クラブは、読み書きを学ぶ人々を助けるための数多くの素晴らしいプロジェクトを実施してきました。学校に教

材を提供し、教師を教育し、子供たちに通学に必要な衣服や本を提供してきました。そして世界中の地域社会においては、ロータリアンが学校を訪問し、子供たちに本を読んで聞かせ、その逆に子供たちが本を読むのを聞いてあげてきました。

これら数多くの成功にもかかわらず、未だ無数の成人が、簡単な文の読み書きができず、実用的な識字能力を備えていません。つまり、通常の業務や毎日の生活に必要な読み書きや計算を行うことができないのです。この問題によって、自分をはじめ家族を養う上で非常に多くの人々に制約が課せられており、この問題への取り組みに、ロータリーの豊かな経験と継続的活動が必要とされているのは明白です。

2005 - 06年度を通じて、私は、世界各地でロータリアンが効果的に取り組んでいる問題、すなわち水保全に関連する活動も継続するようロータリアンに奨励していきます。ロータリー・クラブによる無数の水プロジェクトのおかげで、何十万もの人々が今や水を手に入れることができ、飲用水や適切な衛生環境による多くの保健上の恩恵を受けています。

しかし、未だ多くの課題が残されているのも事実です。あまりに多くの人々が、安全な水の供給を受けられず、適切な衛生環境に恵まれていません。その結果、予防できるはずの水を介在とした感染症によって死ぬ必要のない多くの人々が死亡しています。水保全問題はまた、食糧供給にも影響を与えています。1人の人間が必要とする毎日の食事を生産するためには、2,000 から 5,000 リットルもの水が必要とされているからです。国連は、この世界的な水の危機を「経済発展、貧困緩和、環境、そして平和と安全への脅威」と表現しています。飢餓を軽減し、この重要な資源が奪われている人々の保健と福祉を改善するために、ロータリアンの継続した活動が是非にも必要とされているのです。

識字率向上と水保全が注目すべき二つの緊要な問題であると私は確信していますが、その一方で、ロータリー・クラブもまたこれに優るさまざまな重要問題に取り組んでいることを承知しています。ロータリーの素晴らしさは、奉仕の機会を数多く提供してくれることにあります。クラブは地元地域社会のニーズを見極め、それを叶えるためにいかにしてその人材源や資源を生かすことができるかを判断します。この草の根の参加がロータリーの成功の特徴であり、私は、地元や海外の地域社会にとって最も有益となる奉仕を引き続き行っていただくよう、すべてのクラブに奨励したいと思います。

しかしながら、これは一人で実行できることではありません。多くの場合、私たちは同じ理想や目標を共有する他団体と協力して活動することによって、地域社会の

ために多くを成し遂げることができます。年度の奉仕計画を立てられるにあたり、他団体と協力関係を結ぶことによって、クラブの活動をいかに広げることができるかを検討してみてください。

1911年、ロータリアンは「超我の奉仕」という標語を熱意をもって採択しました。それは、この標語が、生まれたばかりの組織が発展の途上にある中、その理想を巧みに言い表していたからです。それから95年間、この標語は、私たちが人道的奉仕を遂行し、高い道徳的水準を推進し、国際理解と平和のために活動する上で、根底をなす動機となってきました。私たちの生活に内在するあらゆる事象と同じように、この標語を私たちは自然に受け入れることができます。来たる年度、すべてのロータリアンに「超我の奉仕」の真の意味をじっくりと考えていただく機会が与えられます。そして、この思いやりと寛容の精神に満ちた普遍的メッセージに、新たな思いを抱かれることになると思います。



カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

2005 - 06年度 国際ロータリー会長

2005年2月20日

## 国際ロータリー 2005 - 2006年度 会長 プロフィール

### カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

(スウェーデン・イエーテボリ RC)

- 1987 - 88年度 地区ガバナー
- 1998 - 00年度 RI監査運営審査委員会委員
- 1997 - 98年度 RI監査委員会副委員長
- 1997 - 98年度 RI財務委員会委員長
- 1996 - 98年度 国際ロータリー理事
- 2004 - 05年度 RI会長エレクト



カール・ヴィルヘルム・ステンハマー氏は、国際的な製品の食品ブローカーであり、ガストF. プラット社の元オーナーです。ビジネスで活躍していた頃、ステンハマー氏は世界中を回りました。さらに同氏は数社の理事および地元の私立学校の理事長を務めてきました。

ステンハマー氏は、1974年以来のロータリアンです。氏は入会后すぐにロータリーのあらゆるレベルの活動に参加し、クラブ、地区、そして国際レベルで数多くの役職をこなしてきました。地区では、青少年交換委員会、会員選考委員会、スウェーデン・ロータリー青少年交換財団などの委員長を歴任しました。また氏が所属する地区の国際ロータリー奨学金財団の会計を担当し、1987 - 88年度には地区ガバナーを務めました。

青少年奉仕委員会に任命された1991年、同氏はロータリーへの国際奉仕を開始し、1993年には同委員会の委員長、そして青少年奉仕実行グループに地域コーディネーターを歴任し、数々の国際ロータリー研究会のモデレーターも務めました。同氏は、フィンランドからアフリカまでの地域、米国、そしてインドまで、数多くの地区大会にRI会長代理として派遣されました。1996 - 98年度にはRI理事を務め、それ以来、執行委員会のメンバーや財務委員会委員長、監査委員会の副委員長などを歴任しました。

1998 - 2000年度にはRIの監査運営審査委員会の委員に、2001年にはサンアントニオ国際大会委員会の委員となりました。同氏はまた、1999 - 2000年度地域雑誌編集者セミナーのモデレーター、2000 - 04年度ヨーロッパおよびRIBI恒久基金委員会の委員長、ストックホルムで開かれた2003年度会長主催祝賀会議の議長、2003 - 04年度識字および教育推進グループの総コーディネーター、国別ポリオ・プラス担当顧問、およびポリオ撲滅提唱グループのメンバーを務めました。

ステンハマー氏は、1935年1月16日、スウェーデンのイエーテボリに生まれました。1962年にモニカ夫人と結婚し、2人の息子、そして2人の孫息子と孫娘が1人います。

ステンハマー氏はロータリー財団の大口寄付者およびベネファクターです。

## 奉仕の第二世紀へ向けて

2005 - 06年度  
ガバナー 曾我 隆一

2004 - 05年のロータリー年度を通じて、私達はロータリー100周年を祝ってきました。ロータリーの最初の百年史の最終章が閉じられる今年の6月まで、この祝賀が続きます。7月からの私達のロータリー年度は第二世紀の第一章を書き始めることとなります。私達は従って、クラブレベルから成り立つロータリー組織運営の未来に大きな影響を与える立場に立っていることを自覚すべきでしょう。

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー2005-06年度 RI 会長は、この極めて大きなロータリーの転換期にあたって、意義深い RI テーマ: " SERVICE above Self " 「超我の奉仕」を掲げました。

これはロータリーの原点を再確認し、それを土台に未来へ向かうことを意味しています。

それでは、ロータリーの原点とは何なのでしょう？

今年のアナハイムの国際協議会においてピチャイ・ラタクル元 RI 会長は言われました。ロータリー固有の原点とは、人を助け、慈愛の種を播きたいという心、奉仕に手を貸したいという願望、そして超我の奉仕の理想を実践したいという意志です、と。

正に、良質な職業人の代表であるロータリアンが、自己の内なる矛盾(利己と利他)を克服して、他人のために尽くそうという人生哲学としての心の有り様が、この「超我の奉仕」のモットーです。決議23 - 34に併記されているアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した実践論理の原理としての "He profits most who serves best" 「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」とともに、この二つのモットーはロータリーの「奉仕の理想」を端的に示しています。

奉仕の第二世紀を迎えたロータリーは、今大きな危機に直面しています。その危



機の本質は、ロータリーの原点が見失われ、ロータリーの魅力が喪失しつつあることです。その結果が、会員の減少となっているのです。今こそ、地区内ロータリアンの叡智と総合力を結集して、ロータリーの魅力を再生させることこそが、喫緊の課題です。

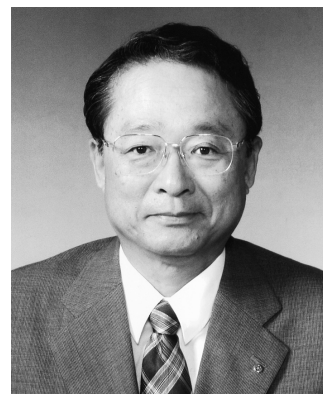
ロータリーの魅力再生の成否は、ロータリーの基本単位であるクラブがいかにかに元気を回復するかにかかっています。地区としては、クラブ組織強化の支援を最優先課題とし、効果的なツールや情報・人的資源をクラブに提供いたします。ガバナーを先頭に地区チーム(PG による研修委員会、ガバナー補佐、地区委員会)スクラム組んで、地区内47クラブの活性化サポートに全力をあげますので、地区ロータリアン各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

国際ロータリー第2840地区  
2005 - 2006年度  
ガバナー 曾我隆一

曾我隆一

2005年4月16日

国際ロータリー第2840地区 2005 - 2006年度  
ガバナー・プロフィール



**曾我 隆一 (前橋ロータリークラブ)**

生年月日 1942年(昭和17年)8月13日生

職 業 曾我製粉株式会社 代表取締役社長

学 歴 1965年 慶應義塾大学 商学部 卒業

**主たる公職・団体職**

協同組合全国製粉協議会 会長、群馬県中央小企業団体中央会 会長、  
社団法人群馬県労働基準協会連合会 会長、社団法人群馬県経営者協会  
副会長、群馬県食品工業協会 会長、群馬県倉庫協会 副会長、前橋商工  
会議所 常議員 食品部会長、群馬県立近代美術館 友の会 会長

**主たる表彰歴**

昭和60年 6月18日 食糧庁長官感謝状(製粉)  
平成 7年 2月 8日 群馬県知事表彰(消防)  
平成 7年 1月13日 警察庁長官表彰(交通)  
平成 8年 1月 5日 消防庁長官表彰(消防)  
平成10年 5月 3日 群馬県総合表彰(食品産業振興)  
平成12年 6月 9日 農林大臣感謝状(製粉)  
平成12年11月10日 文部大臣表彰(私学振興)  
平成13年11月 3日 藍綬褒章受章(製粉)  
平成13年11月29日 中小企業庁長官表彰(中小企業振興)

**ロータリー歴**

1977年3月1日 前橋ロータリークラブ入会  
1988 - 89年 前橋ロータリークラブ幹事  
2001 - 02年 前橋ロータリークラブ会長  
1989 - 90年 地区インターアクト委員会委員  
1990 - 91年 地区インターアクト委員会 委員  
1991 - 92年 地区インターアクト委員会 委員長  
1993 - 94年 地区副幹事  
1997 - 98年 地区クラブ奉仕委員会 大委員長  
兼 会員増強委員長・GSEチームリーダー(7610地区への派遣)  
2002 - 03年 地区クラブ奉仕委員会 大委員長  
2003 - 04年 地区社会奉仕委員会 大委員長

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(3回)

米山功労者 ベネファクター

**国際ロータリー第2840地区  
2005 - 06年度 地区目標 (Target)**

1. 『超我の奉仕』を誓約しましょう。
2. 地区リーダーシップ・プラン(DLP)とクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)を推進し、会員組織を強化しましょう。
3. ロータリー理念「奉仕の理想」の鼓吹・育成に努め、会員および組織の質的向上を図りましょう。
4. 魅力あるクラブづくりとクラブ組織強化を推進し、各クラブ会員純増1名を達成しましょう。
5. RI 第1890地区(ドイツ北部)との研究グループ交換(GSE)を成功させましょう。
6. ロータリー財団への寄付目標 : 年次寄付22万ドル、恒久基金寄付5千ドル、Every Rotarian, Every Year 2003 06 一人100ドル以上
7. 米山奨学会への寄付目標 : 一人当たり1万5千円

**《クラブへのお願い事項》**

ビジョンづくりとクラブ強化推進のための特別委員会(横断的プロジェクト)の設置。

クラブ情報通信担当役員(CICO)の設置。

2005 - 06 年度 RI テーマ 解説

## 「超我の奉仕」について

国際ロータリー第2840地区

2005 - 06年度 ガバナー

曾我 隆一

2005年国際協議会の初日(2月19日)、カール・ヴィルヘルム・ステンハマーRI 会長エレクトより、ロータリー第2世紀の最初のRI テーマが発表されました。

「超我の奉仕」(SERVICE Above Self) 会場にいた全員がスタンディング・オベーションでこの素晴らしいテーマを歓迎しました。この“Service Above Self”は、“He Profits Most Who Serves Best”とともにロータリーの「奉仕の理想」を端的に示すロータリー・モットー(標語)として長らくロータリアンの支え、羅針盤となってきました。

“He Profits Most Who Serves Best”という言葉は、ロータリーの奉仕概念を確立したアーサー・シェルドンが提唱したもので、1911年第2回全米ロータリー連合会のポートランド大会で『ロータリー宣言』案の結語として採用されたことは記録に残っていますが、“Service Above Self”については、誰がいつ作ったか不明です。一説によると、ミネアポリス・ロータリークラブの会長ベンジャミン・コリンズが、1911年の同大会でシェルドンの言葉に呼応して提言した“Service, Not Self”という言葉が、議論の末に“Service Above Self”と修正され、以後“He Profits Most Who Serves Best”とともにロータリアンが様々な機会に使用するモットーとして親しまれるようになっていったということです。

この2つの言葉は、1950年デトロイト国際大会でロータリーの公式標語として採用され、1989年のシンガポール規定審議会で“Service Above Self”(「超我の奉仕」)が第一標語に、“He Profits Most Who Serves Best”(「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」)が第二標語に指定され、今日に至っています。

この二つのモットーがロータリー理念の核心を示していることは、過去1世紀のロータリーの最重要文献の一つである『決議23 - 34』を見れば確認できます。この1923年の決議は、「職業奉仕」の理念を重視する理念派と、「社会奉仕」の実践を中心に考える実践派との間に激しい論争が交わされた後、その調和を図り、ロータリーの奉仕に対する考え方を交通整理してまとめられたもので、以後今日まで、ロータリーの

奉仕に対する基本姿勢を表明した文献として大切にされています。その第1条に二つのモットーが出てきます。

原文では次のように表現されています。

Fundamentally, Rotary is a philosophy of life that undertakes to reconcile the ever present conflict between the desire to profit for one's self and the duty and consequent impulse to serve others. This philosophy is the philosophy of service - "Service above self" - and is based on the practical ethical principle that "He profits most who serves best"

公式日本語訳は、次の通りです。

ロ - タリ - は、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕 - 「超我の奉仕」 - の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原理に基づくものである。

ここでは、ロータリーは一つの人生哲学(人生の拠りどころとなる原理原則)であると高らかに宣言し、その哲学を二つのモットーで端的に表明しています。ロータリーの考える「奉仕」(Service)とは、「超我の奉仕」であり、それは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的・倫理的原理に基づいている、というのです。

ロータリーの本質は、この二つのモットーに示されています。二つのモットーは二つで一つです。ですから、私たちが、2005 - 06 年度 RI テーマ「超我の奉仕」に言及するときは、いつもこの二つのモットーが一体となって意味するロータリーの「奉仕の理想」に思いを致さなければなりません。

『決議23 - 34』は、『手続要覧』では第6章「社会奉仕」の中に「社会奉仕に関する1923年の声明」として記載されていますが、いわゆる四大奉仕の1部門としての「社会奉仕」ではなく、ロータリーの「奉仕」(一般奉仕概念)についての基本方針が表明されている、と考えた方がよいと思います。

もう一つ、見逃してはならないことがあります。実は、上記引用の第二標語の部分(アンダーラインで示した)は、『決議23 - 34』の最重要の一節であるにもかかわらず、現在の『手続要覧』ではカットされています。第二標語がたどった不幸な歴史と現状については、別の機会に触れなければなりません。私たちがロータリーの本質を語るときには、いつもこの二つのモットーを一体にして念頭に置くべきでしょう。

今日では、第一標語の“Service Above Self” は人道主義的諸活動を行う「社会奉仕」の、そして第二標語の“He Profits Most Who Serves Best”は「職業奉仕」の拠りどころまたは象徴的表現として解説されています。

RI の表彰プログラムの一つに『RI 超我の奉仕賞』があります。この賞は、「ロータリーの標語『超我の奉仕』を象徴するような模範的な人道的ロータリー奉仕活動をしたロータリアンに贈られる。」そして、この賞は「ロータリアンに対するロータリーの与える最高の栄誉」とされています。このように「超我の奉仕」は、ロータリーの人道的奉仕活動の根拠となる言葉なのです。

しかし、「超我の奉仕」とは何か、字義そのものの解説は、近年のロータリー文献にはほとんど見当たりません。(第二標語と「職業奉仕」の詳しい解説については、例えば RI 第 2680 地区の PG 田中 毅さんのロータリー研修シリーズ『職業奉仕 理論と実践テキスト』を参照:ホームページ『ロータリーの源流』)

私たちは、「超我の奉仕」という言葉に先人ロータリアンが込めた深く、そして熱い思いを想起すべきでしょう。“Service Above Self”の公式訳は「超我の奉仕」ですが、この言葉はこれまで「自己研鑽の奉仕」とか「奉仕第一、自己第二」(米山梅吉翁)とかと意識されてきました。このモットーは、自他の対立・矛盾を超えて他人に奉仕することが自分を生かすことであるという、ロータリーの「奉仕」の本質を端的に表現しています。

ロータリークラブの奉仕活動のあり方を議論すると、必ずでてくるのが、「ロータリーは“I serve”だ。」という言い方です。これは、ライオンズの“We serve”と比較したとき、ライオンズとは違うロータリーの「奉仕」の特徴を示す言葉としてロータリアンの間で多用されています。確かに“We serve”は、ライオンズの名前の由来となったスローガン Liberty, Intelligence, Our Nations Safety と一緒に掲げられているライオンズの唯一(?)の公式モットーです。ところが、“I serve”という言葉はロータリーの公式文献のどこを探しても出てきません。団体奉仕か個人奉仕かという、ライオンズのような他の奉仕団体と比較したロータリーの「奉仕」のスタイルの特徴を表してはいますが、“I serve”という言葉がロータリーの「奉仕」の本質を表しているとはいえません。

ロータリーの「奉仕(の理想)」の眼目は、団体奉仕か個人奉仕かという形式的な違いを説明するところにはなく、奉仕をする人の心の在り様を問うているところにあります。団体か個人か、自己か他者かというような対立項を超えた次元で、または対立を克服してゆく過程で、ロータリアン一人一人が、生き方として「奉仕(の理想)」を考え実践してゆくところにその本質があります。

まさに「人生哲学」として、良質な職業人の代表であるロータリアンが、自己の内なる矛盾(利己と利他)を克服し(これが「超我」“Above Self”)、自己を高めて他人に奉仕する(他人のことを思いやり、他人のために役立とうと尽くす)決意を表明する言葉が、「超我の奉仕」というモットーなのです。

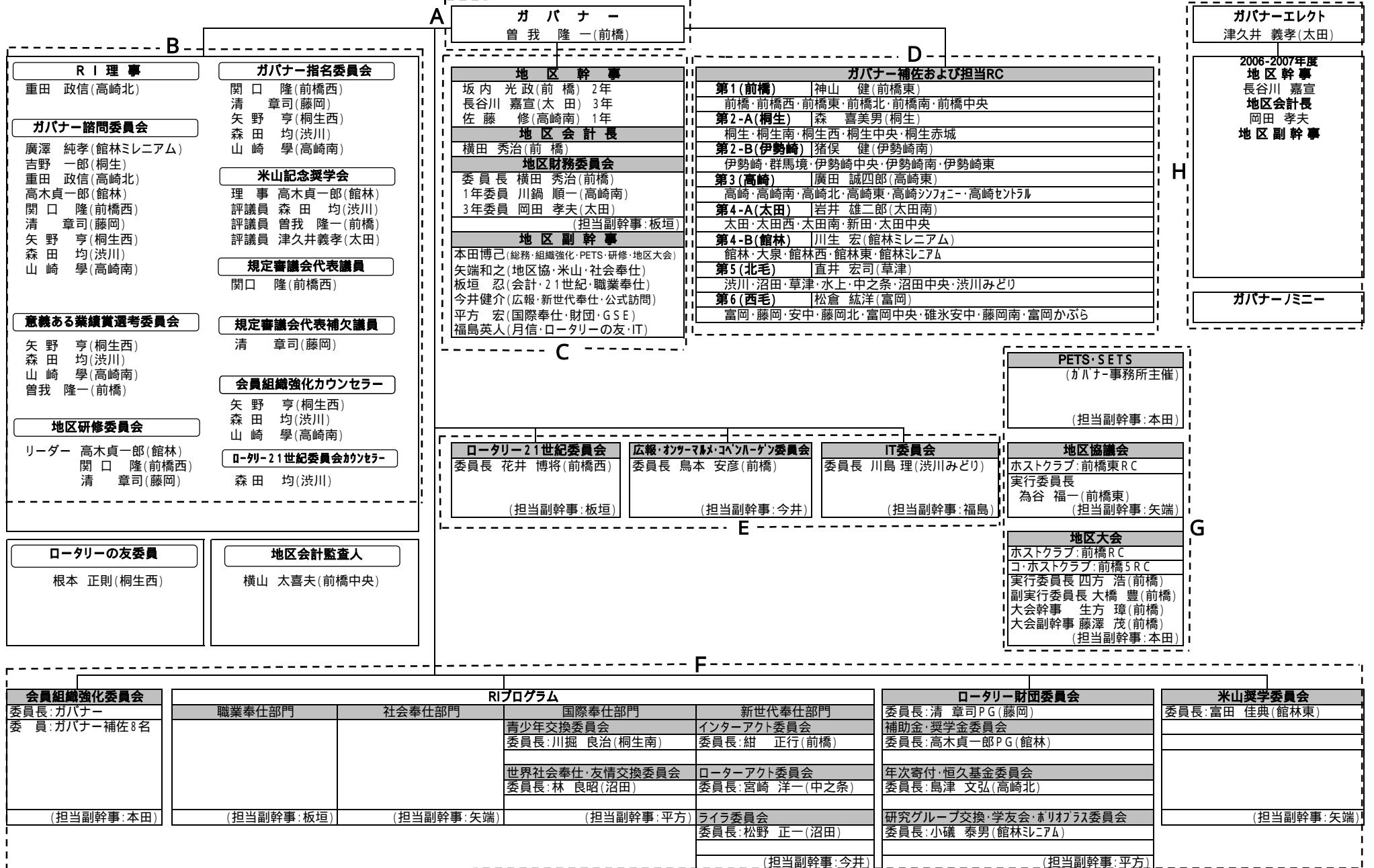
このような高い精神性(人生哲学)と実践力(人間形成・自己研鑽・倫理高揚の運動)を兼ね備えていることがロータリー理念の本質・美質であり、独自性でもあります。私たちは、この極めて普遍的で優れたロータリーの哲学と運動論にもっと誇りを持ってよいのです。

ステンハマーRI 会長エレクトは、「超我の奉仕」というテーマを、「ロータリアンを鼓舞する最も意義深い言葉」とし、「私たちが人道的奉仕を遂行し、高い道徳的水準を推進し、国際理解と平和のために活動する上で、根底をなす動機」と位置づけています。

私たちが、ロータリー新世紀のスタートに当たって「超我の奉仕」を掲げるということは、私たちロータリアンが確信を持って「奉仕の理想」の探求をこれからも続けることを、社会に対してあらためて宣言し、また誓約することでもあるのです。

( 2005.3.6 )

# 2005 - 2006年度 国際ロータリー第2840地区 地区組織の構成





## 地区組織構成 解説

### A. ガバナー

1. 国際ロータリー (RI) が提示する、ガバナーの地区に対する責務は次の13か条です。

新クラブの結成 既存クラブの強化助成 会員増の推進 ロータリー財団の支援、日本においては加えて米山記念奨学会の支援 クラブ間およびクラブとRIの間に誠意ある関係を促進 地区大会の計画・主宰、および会長エレクト研修セミナー (PETS)、地区協議会の準備にあたるガバナー・エレクトへの協力 効果的なクラブ公式訪問の実施 ガバナー月信の発行 RI に対する迅速な報告 ガバナー・エレクトに対する各クラブの状況についての情報提供並びにクラブ強化策勧告案の提供 地区における指名および選挙の適正実施 地区ファイルのガバナー・エレクトへの引継ぎ RI の地区役員としてのその他の任務の遂行 (RI 細則 15.090:要約)

この13か条の内、最初の3か条が、Membership Development (「会員増強」と訳されてきた)に関する任務です。Membership Development がガバナーの最優先課題と解されます。曾我年度では、Membership Development の基盤である**クラブ組織の強化( 既存クラブの強化助成)**を最重要課題と位置づけています。

2. ガバナーは、パスト・ガバナー、直前ガバナーおよびガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニエールと協力し、地区運営の継続性・発展性を図ります。
3. ガバナーは、**地区リーダーシップ・プラン** (District Leadership Plan: DLP) と**クラブ・リーダーシップ・プラン** (Club Leadership Plan: CLP) に基づき、ガバナー補佐および各委員会委員長を指揮して地区内クラブの指導・助成を行います。

### B. パスト・ガバナー (Past Governors)

1. パスト・ガバナーの皆様には、ガバナーの地区運営に関する指導役あるいはサポート役として、各種委員会を分担していただきます。

また、2005 - 07年度 RI 理事に当地区から重田政信パスト・ガバナーが就任されます。これに伴い、2005年11月25日(金)、26日(土)に東京、新高輪プリンスホテルにて、2005 - 06年度 RI ゾーン1, 2, 3, 4 (A) の第34回ロータリー・ゾーン研究会が重田 RI 理事のホストで開催されます。また、11月28日(月)には、RI

ステンハマー会長を群馬にお招きし、地区ロータリー研究会(兼 地区指導者育成セミナー)を開催する予定です。

2. 従来の「地区拡大カウンセラー」は、「**会員組織強化カウンセラー**」と名称変更します。「地区拡大」も含めて、「**会員増強**」=「**会員組織強化**」という大テーマをカバーしていただき、「**会員組織強化委員会**」をサポートしていただきます。
3. 2004年6月RI理事会決議第269号により、「**地区研修委員会**」を新設し、地区の研修体制を強化します。委員長は前年度に引き続いて地区研修リーダーの高木貞一郎パスト・ガバナーです。
4. 「**ロータリー21世紀委員会カウンセラー**」を新設し、「**ロータリー21世紀委員会**」の活動を支援していただきます。カウンセラーは、森田均パスト・ガバナーです。

### C. ガバナー・スタッフ

1. 当年度地区幹事(2年幹事)は、地区会計長と連携し、地区運営を統轄します。また、前年度地区幹事(1年幹事)、次年度地区幹事(3年幹事)と協力し、地区運営の継続性に努めます。
2. 会計長は、地区会計を統轄し、地区ガバナーとともに、地区資金の銀行口座の署名人となります。
3. 従来の「地区資金委員」を公式日本語訳の「**地区財務委員会**」とします。委員長は、当年度地区会計長が務めます。  
「地区財務委員会」は、一人当たり賦課金を検討し、地区の管理運営に必要な費用を調べ、地区資金を保管し、地区の財源状況に関する年次報告を用意しますが、特に曾我年度では、改革を進める地区の財務状況を分析・評価し、中長期の地区財務計画を検討します。また、予算B,C項目について見直しを図り、会員一人あたりの賦課単価の切り下げと支出の節減を実施して、効率的な財政運用に務めます。
4. 地区副幹事は、6名の少数精鋭でのぞみます。複数の任務(委員会・行事等)を分担して担当します。委員会・行事の事務・連絡・記録は各担当副幹事が行います。

### D. ガバナー補佐 (Assistant Governor)

1. 従来の「アシスタント・ガバナー」という呼称を公式日本語訳の「**ガバナー補佐**」に改めます。ガバナー補佐は、ガバナーの地区管理を補佐する公式の役職として、地区リーダーシップ・プラン(DLP)の中枢を成します。
2. ガバナー補佐の負担が過度にならないよう(規定では4~8クラブを担当)、第2分

区(10クラブ)と第4分区(10クラブ)は、それぞれ5クラブずつの2グループに分けて、ガバナー補佐を配置します。したがって、地区全体では8グループ8名のガバナー補佐が配置されます。

3. ガバナー補佐の主要責務は、担当クラブの管理運営に関してガバナーを支援することです。そのためには、ガバナーとだけではなく、他のガバナー補佐、地区委員会委員長、ガバナー・エレクトと十分な連携をとる必要があります。また、担当クラブを効果的に支援できるよう、クラブ指導者との密接な対話を通じて信頼関係を築き、クラブがクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)を推進する手助けをすることも重要です。

## E. 地区全体の組織運営に関わる委員会

1. 「ロータリー21世紀委員会」は、森田年度で提唱された「魅力あるロータリーづくり」を地区として推進する、新設の委員会です。2840地区において、ロータリー理念の核心である「職業奉仕」についての理解を深め、21世紀に永続的に発展するロータリーのあるべき姿(ビジョン)を研究し、地区改革への提言を行います。また、クラブの21世紀ビジョンづくりとクラブ改革を支援します。

各クラブにおいても、CLPに基づき、ビジョンづくりやクラブ改革を推進する**特別委員会(プロジェクト)**の設置をお願いします。

2. 「広報・オンツーマルメ・コペンハーゲン委員会」は、従来の「クラブ奉仕委員会」から独立させ、機能強化します。「**広報委員会**」として、ロータリーを外部に広報し、ロータリーのプログラムに対する理解・支援を促進し、地区(群馬県)におけるロータリーのイメージ向上を推進します。

また、「オンツーマルメ・コペンハーゲン委員会」として、2006年6月11日～14日、スウェーデンのマルメ市とデンマークの首都コペンハーゲン市で開催される国際大会への参加を推進します。

3. 「**IT委員会**」は、従来の「クラブ奉仕委員会」から独立させ、機能強化します。地区内のインターネットによる通信環境を整備し、RI・地区とクラブとの間のコミュニケーションをより円滑にし、クラブのIT化(基盤整備、IT研修)を支援します。また、地区内の記録・知的財産の電子図書館化(地区ホームページのアーカイブ化)を推進します。

IT委員会委員長は、**地区インターネット通信担当役員**(District Internet Communication Officer: DICO)として、ロータリーの友委員、ガバナー月信担当副幹事と連携し、ROTARY JAPANの最新情報を各クラブ(のCICO)に提供します。

\* 各クラブにも、**クラブ情報通信担当役員**(Club Internet Communication

Officer: CICO)の設置をお願いします。(インターネット通信の得意な会員が兼任の形で)

## F. テーマ別の専門的委員会

1. 「**会員組織強化委員会**」は、従来の「**会員増強委員会**」(Membership Development Committee)を名称変更し体制を強化したもので、これは CLP に基づくクラブ委員会組織の構成とも呼応しています。

Membership Development の目的は、単に会員数の増大を図ることではなく、「**会員組織の強化**」です。これは、ガバナーの最優先課題であり、地区内の全クラブがクラブ全体で取り組むべき課題でもあります。したがって、ガバナーを当委員会の委員長とし、ガバナー補佐 8 名を委員として、地区内全クラブに対する「**会員組織強化**」の支援体制を整えました。

\* 従来の「**クラブ奉仕委員会**」は、機能強化のため、「**会員組織強化委員会**」「**ロータリー 21 世紀委員会**」「**広報委員会**」「**IT 委員会**」に発展的に再編されています。

2. 地区レベルの RI プログラムを推進する委員会は、4つの部門に分かれます。それぞれの委員会は、各プログラムの管理・運営を行い、クラブを支援します。

「**職業奉仕部門**」と「**社会奉仕部門**」には、地区としては委員を置きません。それぞれ、担当副幹事が、クラブへの支援・情報提供を行います。

\* これは、決して「**職業奉仕**」「**社会奉仕**」を軽視した体制ではありません。「**職業奉仕**」(Vocational Service)は、ロータリーの奉仕概念の根幹を成し、他の奉仕団体とは違うロータリーの独自性の根源でもあります。いわゆる「**四大奉仕部門**」の1部門に留めず、地区全体で研究を深めるべきテーマとして、今年度は「**ロータリー 21 世紀委員会**」「**広報委員会**」や「**会員組織強化委員会**」で取り上げ、地区内での啓蒙・普及を図ります。

「**社会奉仕**」(Community Service)の活動主体は、ロータリアン個人と各クラブです。特に、各クラブは、地域のニーズに適った独自の**社会奉仕プログラム**の研究開発に努めなければなりません。地区はロータリー財団の地区補助金等について包括的に各クラブへの情報提供、支援要請を行います。

**各クラブの「職業奉仕」「社会奉仕」に関わる委員会の活動は、各クラブの実情にあわせて強化・充実を期待します。**

「**国際奉仕部門**」には、「**青少年交換委員会**」と「**世界社会奉仕・友情交換委員会**」の二つの委員会を置きます。

「**新世代奉仕部門**」には、「**インターアクト委員会**」「**ローターアクト委員会**」「**ライラ委員会**」の三つの委員会を置きます。

3. 「ロータリー財団委員会」は、3年委員会として清 章司パスト・ガバナーに委員長をお願いしています。地区内における財団への理解を深め、財団活動を計画・調整・評価し、財団と各クラブとの連絡を行います。  
当委員会は、「補助金・奨学金委員会」「年次寄付・恒久基金委員会」「研究グループ交換(GSE)・学友会・ポリオプラス委員会」の3つの委員会で構成されます。  
特に、今年度の重点事業として、研究グループ交換(Group Study Exchange)プログラムを、ドイツの1890地区(ハンブルグを含む)との間で行います(受け入れと派遣を曽我年度内で行う:受け入れは2005年10月、派遣は2006年6月予定)。
4. 「米山奨学委員会」は、RIプログラムではありませんが、ロータリー財団委員会と並ぶ重要委員会として、3年委員会となっています。(財)ロータリー米山記念奨学会の活動は、優秀な留学生を支援し、国際平和に貢献する日本独自の奨学事業として内外から高く評価されています。当地区からは、毎年1名の理事(パスト・ガバナー)と3名の評議員(パスト・ガバナー、ガバナー、ガバナー・エレクト)を派遣しています。当委員会は、地区内において米山奨学事業を計画・推進し、米山奨学会と各クラブとの連絡を行います。2005年度は寄付金の伸び悩みにとともに、基金基盤に支障が生じ、そのため米山奨学生採用数が全国で800人に減少、加えて学部対象のYU奨学金は月額10万円(16%減)、大学院生対象のYM、YD奨学金は月額14万円(6%減)となります。

## G. 地区行事

1. 「会長エレクト研修セミナー(PETS: Club Presidents-elect Training Seminars)」は、クラブ会長エレクトを対象とし、クラブ会長としての能力・知識を育成しモチベーションを高めることを目的としています。  
今年度は、2005年3月27日(日)に前橋マーキュリーホテルで開催されます。同日、次期クラブ幹事を対象とした「次期幹事研修セミナー(SETS)」も同時開催します。(終了)
2. 「地区協議会」は、各ロータリークラブの新年度指導者育成を目的にしています。  
今年度は、2005年4月16日(土)にロイヤルチェスター前橋(旧グランドベルズ)で開催されます。実行委員会は、前橋東RCをお願いしています。(終了)
3. 「地区大会」は、2005年10月15日(土)に前橋マーキュリーホテルで開催されます。「地区組織・運営を簡素化し、クラブ支援を強化する」という年度方針に基づき、大会運営をゼロから見直しています。大会の期間を1日とし、全員登録方式は採りません。
4. 公式訪問について

ガバナー公式訪問のあり方を大きく見直しました。ガバナー補佐事前訪問を7～8月中に行い、クラブの現状とニーズを十分に把握する時間を取ります。現況報告書の提出は、全クラブ8月末までとします。ガバナー公式訪問は、9月～10月に、分区・グループ単位で合同例会の形で行います(従来のIMに替えて)。また、公式訪問とは別に、個々のクラブの実情に応じて必要な支援ができるよう、ガバナーが各クラブの個別訪問も計画します。

## H. ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニー

### 1. ガバナー・エレクトとそのスタッフ(2006 07年度)

ガバナー・エレクト：津久井 義孝さん(太田)  
地区幹事          :長谷川 嘉宣さん(太田)  
地区財務委員     :岡田 孝夫さん(太田)

### 2. ガバナー・ノミニー(2007 08年度)

未定

- \* RI細則第13条の変更により、就任の24か月以上30か月以内に選出される必要があります。  
したがって、2007 08年度のガバナー・ノミニーは、2005年1月から6月の間に選出されます。

(2005.6.1 現在)

## ガバナー公式訪問 要領

### 1. ガバナー公式訪問は合同例会方式とする。

従前の分区毎の IM の機会を合同例会に替える。

\* 合同例会のホスト・クラブは従前の IM と同様の持ち回りで行う。企画立案はガバナー補佐が行う。(第2分区と第4分区は2グループに分かれて行うので、ホスト・クラブは相談の上)

ガバナー補佐が各分区・グループのクラブ会長と相談して会場を決める。公式訪問の日程は下記の通り。

第1分区	9月 3日 (土)
第2分区 A グループ	9月 4日 (日)
第2分区 B グループ	9月10日 (土)
第3分区	9月11日 (日)
第4分区 A グループ	9月17日 (土)
第4分区 B グループ	9月18日 (日)
第6分区	10月22日 (土)
第5分区	10月23日 (日)

### 2. ガバナー補佐は、事前訪問で各クラブのクラブ協議会に参加し、クラブの現状とニーズを把握し、ガバナーに報告する。(7～8月中)

各クラブの現況報告書(記載順序は従前どおり)の**提出期限は8月末**とする。  
(本決算資料含む)

### 3. ガバナー公式訪問合同例会の進め方 例 (実施に当たっては変更もあります)

公式訪問には、ガバナーにガバナー補佐が同行する。

時間は、正午～午後2時半の2時間半。合同例会は昼食会とする。

11:30～12:30 :ガバナー・クラブリーダー懇談会(昼食会兼ねる。参加者:

ガバナー・ガバナー補佐・各クラブ会長・幹事・会長エレクト)

12:00～12:30 :昼食会(小部屋に分散しても可)

12:30～13:00 :(全員集合して)合同例会:会長の時間、ニコニコ報告等。

13:00～13:45 :ガバナー・スピーチ

13:45～14:30 :クラブ自慢(各クラブ会長がクラブの特長、顕著な活動等について  
PRを行う:各7分)

ガバナー訪問のたて看板・案内は不要。お土産も遠慮します。

\* ガバナーは公式訪問とは別に、各ガバナー補佐と相談し、個別にクラブ訪問し例会出席する。

## 会長エレクト・次期幹事研修セミナー (PETS + SETS) および 地区協議会でのアンケート結果報告 (要約)

会長エレクト・次期幹事研修セミナー (2005年3月27日開催)

1. 全般的には、クラブは、RI・地区からのスムーズな情報伝達、そして最新かつクラブに役立つ情報の提供を強く望んでいます。
2. あなたのクラブの重要課題は何ですか  
会員増強・退会防止      クラブの活性化とコミュニケーション  
例会の充実      出席率の向上      以下、委員会の活性化、財政問題、  
リーダー人材の不足、高齢化、ロータリーの原点の理解、など。
3. あなた自身の、クラブ指導者としての課題は何ですか  
クラブの活性化      リーダーとしての研鑽・勉強      退会防止  
ロータリー全体の知識と理解      以下、楽しい例会づくり、メンバーの  
交流と親睦、メンバーがその気になるビジョンづくり、ロータリー活動  
に当てる時間づくり、など。

地区協議会 (2005年4月16日開催)

1. 地区協議会 全体の評価  
(プラス) 有意義な時間。今回ほど勉強になった地区協は初めて。田中毅氏の講演がよかった。ロータリーの本質が理解できた。曾我ガバナーエレクトの改革に対する情熱が伝わった。今までと違うやり方がよかった。合理的運営だった。など。  
(マイナス) 時間が長すぎる。途中で帰るロータリアンが多すぎる。各委員会の分科会は必要。地区の決定を伝達するだけの会。基調講演・セッションともに事前に内容を把握してから聞きたかった。もっとスムーズな進行を。PETS・地区協での重複多い。など。
2. 地区への要望 (どんな支援・情報提供を望みますか)  
21世紀委員会についてのツール提供および他クラブの活動の情報。21世紀委員会立ち上げの支援。      県内クラブの活動状況、例会情報など。  
クラブ IT 化への支援。      RI の細かい情報。      会員増強、出席率アップの方法。      できるかぎりガバナー補佐がクラブを訪問して情報を提供してほしい。      クラブと地区の温度差を埋めてほしい。など。

\* アンケートへの御協力ありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見・ご提言は、今後の地区運営に反映させていただきます。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。      2005 - 06 年度 曾我ガバナー事務所



# 曾我ガバナーエレクト事務所 開催行事一覧(～2005年6月)

開催日	項目	場所	
2004年	12月18日(土)	第1回ガバナー補佐会議	曾我GE事務所
2005年	1月15日(土)	第2回ガバナー補佐会議	前橋テルサ
	2月3日(木)	ガバナーエレクトおよび米山委員長合同セミナー	高輪プリンスホテル
	2月5日(土)	ガバナー補佐・委員長会議	群馬会館
	2月17日(金)～27日(金)	国際協議会	アナハイム・米国
	2月20日(日)	第1回R-列-21世紀委員会	曾我GE事務所
	3月6日(日)	地区チーム研修セミナー	前橋中小企業会館
	3月12日(土)	第2回R-列-21世紀委員会	曾我GE事務所
	3月18日(金)	第1回広報・オンツ・マルメ・コンパニオン委員会	曾我GE事務所
	3月24日(木)	第1回研究グループ交換委員会	曾我GE事務所
	3月27日(日)	会長エレクト・次期幹事研修セミナー	マーキュリーホテル
	4月9日(土)	第3回R-列-21世紀委員会	前橋テルサ
	4月16日(土)	地区協議会	ロイヤルチェスター前橋
	4月16日(土)	第2回研究グループ交換委員会	ロイヤルチェスター前橋
	5月14日(土)・15日(日)	第3回ガバナー補佐会議	伊香保
	5月19日(木)	第1回IT委員会	曾我GE事務所
	6月11日(土)	第1回R-列-財団委員会	群馬県庁 昭和庁舎
	6月17日(日)～18日(金)	国際研究会	
6月19日(日)～22日(金)	国際大会	シカゴ・米国	